

公立大学法人長野大学学長選考会議 学長の業務執行状況評価書

1. 評価

- ☐ 業務執行状況が極めて順調である。
- ☒ 業務執行状況が順調である。
- ☐ 業務執行状況がおおむね順調である。
- ☐ 業務執行状況を改善する努力が必要である。

2. 各委員からの主な意見等

1) リーダーシップ・ガバナンス

- ・エビデンスに基づく教員の年度別業績評価制度、任期付教員の再任用制度等の改革は良好で効果的。全教員との個人面談・意見交換は、教員が学長の考えを理解する良い機会になっていると思われる。学長の大学運営方針を教職員へ伝えるための努力には敬意を表する。
- ・コミュニケーションを大切にしてリーダーシップを発揮しており優れている。
- ・民間での経験を活かし、大学の将来像を明確に描き、ビジョン達成に向けて、教育・研究・地域連携と各分野における戦略的な取組みを推進している。課題であった人事制度改革においては、トップマネジメント体制を敷くことを可能にし、最も大事な優秀な教員の確保に繋げている。学内においても各会議体においては説明責任を果たし、トップダウンとボトムアップのバランスに注意を払い、合意形成に尽力している。
- ・学長コラムの継続した発信力は、ビジョン経営の実現にも功を奏していると考ええる。
- ・意思決定プロセスも開かれており、透明性の高いガバナンスを実現していることは評価に値する。
- ・近隣市町村との関係において首長や企業経営者との懇親を機会あるごとに深めている。学長の人柄もあり、学外関係者との信頼関係の構築は十分に果たされている。

2) 教育

- ・共創情報科学部の新設・既存学部の改組は今後の大学の方向性を示す大きな改革であり、リーダーシップが最も発揮された証であり、敬意を表する。
- ・キャンパスミーティングを開催するなど学生サポートの充実を図っている。また新校舎の設立により学生支援体制の充実が図られ、今後も学生が安心して学べる環境が更に整備されていくと考えられる。
- ・ゼミナールを柱とする優れた教育をよりアピールすべきである。
- ・学生の自主活動を誘導する教育について、その特長を活かす活動を期待したい。

3) 研究

- ・科研費の申請は義務付けている大学も多く、50%の数値目標は少し低いように感じるが、実績は確実に順調に伸びている。令和 5 年度の新規採択率は良好。科研費の申請件数の目標を高める必要がある。
- ・研究は、教員個々の研鑽によるところが大きいですが、長野大学の特長となる研究を推進する取り組みを検討されても良いと思う。
- ・学術論文や学会発表件数が目標に達成していないことは、課題が残る。より実効性のある支援策等で今後の研究力の強化を期待する。

4) 地域貢献

- ・地域の企業、団体、自治体等との協働活動数は、第1期の平均と比べ伸びてきており評価できる。
- ・地域との共創を広報することで地元高校生へのアピールを強化し、地元の学生比率を高めてほしい。
- ・長野大学の特色とも言える地域社会との連携また地域社会への貢献においては、各高校における「探求学習・活動」への教員派遣や生涯学習における公開講座の実施や教員の講師派遣等により深化が図られていると評価する。今後は、企業とのインターンシップ等を通じ、地域のニーズ・地域の課題に応えたソリューションを導き出せる学生の育成並びに地域に根ざし地域を牽引できる学生の成長に期待している。
- ・「うえだ人材共創スクエア」の立ち上げなど、今後の産学連携の推進が期待できる。
- ・地域貢献活動についての広報が必要。地域に対して何を行っているのかを地域に発信する必要がある、長野大学の特長をより活発に広報することを検討すべき。

5) 大学運営

- ・優秀な教員の採用は大学・学部の評価にも直結するので、人事制度改革と評価制度並びに再任用制度改革は評価に値する。教員の業績評価とそれに基づくインセンティブ付与は教員のやる気を高めるので今後に期待。
- ・理事長学長ミーティングの定着による透明性を保った意思決定は、学内関係者との信頼性構築の一助を担っていると評価をする。

6) 国際交流

- ・国際化は大学の世界的な順位付けの指標の一つとなっており、積極的に進めてほしい。
- ・外国人との交流については、信州大学繊維学部と協力することも検討してはどうか。
- ・掲げた目標を達成している点は評価に値する。しかしながら、一方で、より加速度を増す国際化の流れの中で国際化に大きく舵を切る意味でも、次期の目標はより高みを目指した設定を期待する。
- ・留学生の受け入れだけでなく、日本人学生を留学させる支援活動、国際共同研究推進の対策についての検討も必要。

7) その他（「女性の活躍」等）

- ・女性教員比率は良好である。
- ・多様性を重視した組織運営の一環として、審議会の女性委員の割合や教職員の女性割合の増加を図る等、取組みを強化している。いずれも令和10年度までの目標数値が掲げられている取組みであるので、マイルストーンをおいて目標達成に向けて推進されることを期待している。

総評

学長選考会議の各委員からは、学長のリーダーシップ・ガバナンスについて「極めて順調」と評価が高かった。一方で、「研究」に関しては当初の設定目標が低いのではないかと指摘とともに、論文数・学会発表件数が目標数に達していないことなどが指摘され、「国際交流」とともにさらなる強化を期待する声があった。